

# みどりアップQ

緑 × まち × 未来を考えよう

楽しい？  
ちよっと大変？  
子ども達の農体験

田んぼは、お米をつくるだけじゃなく、子ども達にとっては、農体験を通して自然や、自然を育む大切さを知る学びの場にもなっています。そんな学びを楽しむ、小学校の取組を取材しました。次世代へつなぐ活動が広がっています。



## よこはまで農体験しよう

果物のもぎとりや野菜の収穫体験、米づくりなど、個人でも気軽に農体験ができる場所が、横浜にはたくさんあります。ここでご紹介するふるさと村、恵みの里は、昔ながらののどかな田園風景の中で農体験や味噌づくりなどの農産加工体験が楽しめます。

- ◆寺家ふるさと村 四季の家 (青葉区寺家町414) 加  
TEL 045-962-7414 FAX 045-962-6321
- ◆舞岡ふるさと村 虹の家 (戸塚区舞岡町2832) 収加  
TEL 045-826-0700 FAX 045-826-0749
- ◆田奈恵みの里 (青葉区田奈町ほか) 米収加  
TEL 045-948-2480 FAX 045-948-2488 (北部農政事務所)
- ◆都岡地区恵みの里 (旭区都岡町ほか) 米収加  
TEL 045-948-2480 FAX 045-948-2488 (北部農政事務所)
- ◆新治恵みの里 (緑区新治町ほか) 米収加  
TEL 045-948-2480 FAX 045-948-2488 (北部農政事務所)
- ◆柴シーサイド恵みの里 (金沢区柴町及び長浜) 収  
TEL 045-785-6844 FAX 045-788-8588 (JA横浜柴農園管理事務所)

- 米づくり体験あり
- 果樹のもぎとり・野菜等の収穫体験あり
- 農産加工体験あり



うどんづくり教室



さつまいも掘り

※施設や時期によってイベント内容が異なるので、それぞれのホームページでご確認下さい。

ふるさと村・恵みの里のほかにも、区画貸し農園や農家の指導付きの農園、収穫だけを楽しむ農園など、様々な農を楽しむ場があります。

よこはまで農体験

## 田んぼは、ビオトープ。

文 相川健志 委員

### 第2回 田んぼとアカガエル ～冬の田んぼは命のゆりかご～

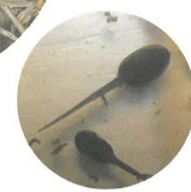
最近あまり見ることがなくなったニホンアカガエル。ニホンアカガエルは、アマガエルやヒキガエルなどより一足早く産卵します。市内では、2月上旬～3月上旬に、ゼラチン質にくるまれた卵を500～800個ほど水中に生みます。

市内のある公園では、アカガエルが産卵できるよう、復元した水田で冬場も水をためています。このような少しの工夫で、田んぼはアカガエルの子育てのための大切な場所“命のゆりかご”となることもあります。



### このコーナーについて

田んぼはお米などつくる場だけではなく、食育や環境教育、治水、景観の保全、生き物のすみかなど、人にとっても生き物にとっても大切な場所。そんな田んぼの魅力を、田んぼの生き物博士をご紹介します。



## みどりアップ計画を動画で紹介しています

みどりアップ計画の取組をウェブ動画でご覧いただけます。



横浜みどりアップ計画 PRビデオ

QRコード



横浜みどりアップ 葉っぱ

## 横浜みどりアップ計画とは？

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています(個人市民税均等割に年間900円、法人市民税に均等割の9%相当額を上乗せ)。計画書は、環境創造局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報センター、環境創造局政策課で閲覧できます。

環境創造局ホームページ  
http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyō/midorip/



## 横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは？

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

市民推進会議

## みどりアップQとは？

みどりアップQの“Q”は「みどりアップをもっと知る、なぜなに?(クエスチョン)」と、「緑のある暮らしの質(クオリティー)を考える」。市民目線でみどりアップ計画を探っていく市民推進会議のレポートです。

みどりアップQ 第8号  
(市民推進会議広報誌 第28号)平成28年12月発行  
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会  
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ 横浜市環境創造局政策課(事務局)  
〒231-0017 横浜市中区港町1-1  
Tel:045-671-4214 Fax:045-641-3490  
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp



# 米づくりに挑戦

# みたけっ子田んぼ

みたけ台小学校の5年生100名は、年間を通して農家の村田範雄さんと米づくりに挑戦しています。  
 代かき、田植え、ヒエ抜き、稲刈り、藁細工、もちつき……。  
 田んぼの教室で、子どもも先生も、いろいろなことを学びます。  
 みたけっ子田んぼでの、子ども達の活動をレポートします。

取材 加茂千津子 委員  
 長瀬里佳 委員

地面がぐちゃぐちゃでやめているうちにやわらかくなりました。楽しかったです。

最初は、少しいやだったけど、やってみるととても楽しかったです。



黄金色の稲穂に大満足



かかしづくり大成功

## 緑豊かなまち、青葉区

みたけ台小学校のある青葉区は、横浜北部にある緑豊かなまち。約50年前に田園都市線が開通し、住宅街としてまちは発展してきました。その一方で、田んぼの面積は横浜18区の中で一番大きく、畑も2番目。谷本川、恩田川沿いには田んぼが多くあり、谷戸田もあります。  
 市内には、地元の農家さんの「環境学習農園」で、米づくりや野菜づくりを体験している小学校がたくさんあります。みたけ台小学校でも、保護者や地域の方のサポートのもと、5年生が学校の近くにある「みたけっ子田んぼ」で農家の村田さんと米づくりの体験学習をしています。

### みたけっ子レポート その2

#### 田んぼで聞いてみよう

本やパソコンで米づくりについて調べた子ども達。それでもわからないことは、観察会で直接村田さんに質問しました。「水不足に備えてどんなことをしている?」「米づくりに害を与えているのは?」「米づくりで大切にしていることは?」

「太陽に向かってまっすぐ伸びている」と自分で植えた稲を観察する子ども達。収穫の日が待ちきれないようです。



田んぼに触れて調べたことを確認します

### みたけっ子レポート その1

#### まずは、田んぼへいってみよう

「授業がなければ田んぼのある所まで来ることはなかった」という子や、畦道を歩くことに戸惑う子がいるほど、田んぼはなじみのない存在。そのため、最初に教わることは、田んぼの場所や広さを確認すること。田んぼとの「初めまして」から授業が始まります。

今では「あのへんは私達が植えたの」「あそこは僕達」と目印のない苗を指差して、子ども達はうれしそうに教えてくれます。



代かきでは泥んこになりながら土をかきならします



暑さに負けずヒエ抜き

### みたけっ子レポート その3

#### 見て、触れて、子どもも大人も一緒に考えよう

田んぼから雑草のヒエを抜く作業は、まず、ヒエと稲の見分け方を知るところから。これが難しいのです。子どもも大人も、見て、触れて、真剣な様子。子ども達は「難しい」と言いながらも、どんどん田んぼへ入り、一生懸命ヒエを抜いていました。

### みたけっ子レポート その4

#### 待ちに待った、収穫の日

鎌の使い方をしっかり教わったあと、いよいよ収穫。汗を流しながら刈り取る様子は真剣そのものです。前日の雨でぬかるんだ泥に足をとられながら、一株一株しっかり刈り取っていきました。

「楽しかった」「愛情を込めて育てたからおいしいお米になると思うよ」と子ども達。保護者の方々は、この日も作業のサポートをしてくださっていました。

## 地域の子どもを地域が育てる

村田さんは、みたけ台で18代続く農家さんです。この10年間で約2,000人の子ども達の農体験に携わってきました。村田さんの話からは、この恵まれた農のある環境をこれからも守り育てたいという思いが伝わってきます。

「大人になってこの経験を思い出した時に、自分達はあんなことができたんだと感じてもらえたら」と村田さん。地域の子どもみんなに農業の話ができること、米作りを知ってもらえること、田んぼへ入るのマナーを知ってもらえることが嬉しそうです。

地域の子どもを、地域が育てる。そしてその子ども達が大人になって、次世代へ伝えていくのです。



村田範雄さん

村田さんが米作りにかける思いがよく伝わりました。

### ここにみどり税

水稲作付を10年間続けることを条件に水田保全奨励金が交付されます。

## みたけ米 農事ごよみ ～みたけっ子田んぼでの子ども達の一年の作業～



※この活動は農家の指導のもと、学校教育の一環として行っています。土地所有者の許可なく、田んぼや畦道には入れません。